

第3回病診連携委員会要録

日 時 平成21年7月27日(月) 午後7時30分
場 所 浪速区医師会 会議室
出席者 浪速区医師会7名
愛染橋病院2名 大野記念病院3名 四天王寺病院2名
多根総合病院1名 富永病院2名 浪速生野病院1名

議 題

1. 病診連携委員会のアンケート結果等について

久保田委員より前回の病診連携委員会での決定事項の確認とそれを踏まえて開催された医師会理事会(6月24日)での決定事項の報告があった。

続いて、委員全員にむけて実施した「病診連携委員会の今後の方向性について」のアンケートの集計結果の報告(資料のとおり)があった。今後も改善点や協議事項などの提案をうかがうメッセージを送るので、委員会で言えなかったことや後で思いついたことなど何でも伝えてほしいとの要望があった。

2. ブルーカード(案)について

1) 方針を次のように決定した。

- ・ブルーカードの開始は、まず在宅患者から始め徐々に適応拡大していく。
- ・富永病院と四天王寺病院の2病院は、専門病院の要素が強いので病病連携として参加する。
- ・一次受け入れ病院(依頼病院)が、実際に患者さんを診察する前に聴取した病状から、病病連携で先の2病院を紹介してもよいこととする。但し、診療後専門外であれば差し戻すことも可能とする。

↓ 8月31日の病診連携委員会にて変更

一次受け入れ病院(依頼病院)が、聴取した病状から緊急対応の必要性などを考慮して、無診察でも他病院を紹介してもよいこととする。但し、診察後、受け入れ困難な内容であることが判明すれば改めて依頼病院と相談して対応を検討することとする。

- ・4病院(愛染橋病院、大野記念病院、多根総合病院、浪速生野病院)は一次受け入れ病院として、内容に関わらず連絡してもよい。

2) ブルーカード等の仕様は次のとおり追加変更することとなった。

- ・判明しているなら感染症も記入する。
- ・紹介元医療機関名に連絡先を追加する。
- ・富永病院と四天王寺病院については、カードの依頼病院選択の項には名前を載せず、封

筒の転送可能病院の項にのみ名前を記載する。

- ・カードの使い方や転送可能病院なども封筒に記入する。
- ・有効期限の管理については、6か月更新とする。改めてカードを作成する手間を省くため複数の有効期限の更新記入欄を設ける。
- ・カードの使用は、休日と夜間に限定する。
- ・カードは患者本人、依頼病院だけでなく医師会にも報告し、医師会が一括管理することで有効期限の管理ができるようにする。

なお、早期実現を目指し、9月を調節期間、10月中の実施を目標とすることとし、調節期間中に、医師会と病院それぞれがブルーカードに対する理解と調整を行うこととする。

3. 医療機関診療データ（大野記念病院作成）について

資料の医療機関診療データを浪速区医師会A会員に送付することとする。

4. 病院入院中の在宅患者の今後の方向性→尾道市の例

大野記念病院により、病診連携がうまく行われている尾道市の例（いわゆる尾道方式）のプレゼンテーションが実施された。

次会会議予定 平成21年8月31日（月）午後7時30分